



写真左から心理学類4年中嶋優美佳さん、健康栄養学類4年高橋楓さん、心理学類3年佐々木翔平さん、同3年千葉壮馬さん、人文社会学類4年立花和奏さん

「つなげる・つたえる・つづける」活動

尚綱学院大「ボランティアチームTASKI」

「共に(T)」「歩む(A)」「尚綱(SK)」「愛(I)」の頭文字と、人と人をつなぐ駅伝の「たすき」がチーム名の由来。東日本大震災直後、名取市災害ボランティアセンターの活動に参加した尚綱学院大(宮城県名取市)学生有志が前身となり、翌2012年に学内で設立されたボランティアチームです。

「つなげる」「つたえる」「つづける」が活動のコンセプト。「お茶会」といった地元名取市の被災地閉上地区の住民らの交流を促す取り組みや、学内外イベントでの成果発表、情報発信、被災地の変化に合わせた活動の継続などに力を入れてきました。コロナ禍の最中には対面での活動を制限していたものの、被災地でのバスツアー学習会といった企画を少しずつ再開しています。

他大学や高校と交流

宮城県内外の大学、高校とも積極的に交流。神戸の学生とのオンラインイベントに参加した3年生の千葉壮馬さんは「交流を通して『自分は本当に何も知らない』と痛感。宮城県の外のことも学んでいかなければいけないと思いました」と打ち明けます。



バスツアー学習会のコースは従来の閉上に加えこの春、石巻を追加。気仙沼や南三陸などへの拡大も検討中です

3年前からは山形県新庄・最上地区の高校生に向け、防災プログラムも提供しています。自身が山形県出身という4年生の高橋楓さんは「地震の少ない山形県内陸では、自分が住んでいたときも防災意識が低かった。地域の人たちや下の世代が自分の身を守る、備蓄などのきっかけになればと考えました」と話します。一方で関心の低い非被災地の高校生に伝える苦労もあり、4年生の中嶋優美佳さんは「クイズ形式にするなど興味を持ってもらう工夫、相手に伝わるような話し方の必要性を学びました」と反省します。

「活動を通じて人とのコミュニケーションなど学ぶことは多い」とメンバーたち。今後、コロナ禍以前の活動も復活させながら、経験を生かした防災グッズ作りやワークショップなど「新しいことにも挑戦したい」と意気込んでいます。